

### 学校適正配置に関する将来の保護者世代の意識（まとめ）

- 8月に実施した次世代(13-22歳)アンケートと11月に実施した未就学児の保護者の意識調査では、学校適正配置に関する意識、考え方について同じ質問をし、回答を得た。
- この2つの調査の対象者を大まかに分類すると、ここ数年内に小学校に入学する児童の保護者が「未就学児の保護者（近い将来の保護者）」であり、これよりももう少し先の未来に保護者になると考えられるものが「13-22歳の次世代（若い世代）」である。
- それぞれの対象ごとの回答を比較し、傾向を分析すると、以下のような特徴があると考えられる。

#### 1 市立小・中学校が小規模化していくことについて

- 「13-22歳の次世代」は、小規模化に問題があると考えている割合は58.0%で最も多いが、「未就学児の保護者」は、小規模化に問題があると考えている割合は34.1%であり、「13-22歳の次世代」よりも低い。
- 「未就学児の保護者」の回答が最も多いのは、小規模化しても問題ないとする回答で、43.0%である。

⇒ 近い将来の保護者は、比較的、学校の小規模化を問題視していない。  
一方、より若い世代は、小規模化に対して問題意識を持つ割合が高い。

#### 2 学校に一定の規模を持たせることの必要性について

- 「13-22歳の次世代」は、学校に一定の規模を持たせることが必要、または持たせることができればよいと考えている割合は75.4%である。
- 「未就学児の保護者」は、学校に一定の規模を持たせることが必要、または持たせることができればよいと考えている割合は67.5%である。

⇒ 若い世代も近い将来の保護者も、学校に一定の規模を持たせることの必要性を感じている。

- 「未就学児の保護者」は、一定の規模を持つことができなくても仕方がないと考えている割合が23.1%であり、「13-22歳の次世代」の13.0%よりも高い割合となっている。

⇒ 近い将来の保護者が、学校の小規模化を問題視していないのと整合する傾向を示している。

### 3 学校に一定の規模が必要または必要ないとする理由について

□ 「13-22歳の次世代」「未就学児の保護者」とも、たくさんの友だちや仲間ができる、大きな集団で活動できる、競いあいや高めあいができる、部活動の選択肢が増える、クラス替えができる、といった学校に一定の規模があることによるメリットを理由としてあげた割合が高い。これらの理由は、いずれも10%を超えている。

⇒ 若い世代も近い将来の保護者も、学校に一定の規模を持たせる理由は共通している。

□ 部活動の選択肢が増える、という理由は、「未就学児の保護者」では2番目に多く(13.7%)になっているが、「13-22歳の次世代」では4番目(12.9%)となっている。

□ 大きな集団で活動できる、という理由は、「13-22歳の次世代」では2番目に多く(15.8%)になっているが、「未就学児の保護者」では4番目(13.2%)となっている。

⇒ 近い将来の保護者と若い世代との間で、重視する理由に若干の違いが見られる。

□ 「未就学児の保護者」では、一人ひとりに先生が目が届きやすい、という理由の割合が10.6%となっており、クラス替えができる、という理由の10.7%とほぼ同じ数値となっている。また、「13-22歳の次世代」では、先生が目が届きやすい、という理由は6.7%であり、「未就学児の保護者」よりも低くなっている。

⇒ 近い将来の保護者は、一人ひとりに先生が目が届くことを重視していると考えられる。

### 4 まとめ

- ◆ 若い世代も近い将来の保護者も、全体的には学校に一定の規模が必要もしくは一定の規模があればよいと考えている。
- ◆ ただし、学校が小規模になることについては、近い将来の保護者は若い世代よりも問題意識を持つ割合が低い。
- ◆ 学校に一定規模があればよいとする理由は、若い世代も近い将来の保護者も、ほぼ同様の傾向となっている。
- ◆ 特に近い将来の保護者は、部活動の選択肢が増えることや子どもに先生が目が届くことなどを重視しており、若い世代よりも、子を持つ親としての考え方が表れている。

## 意識調査の質問項目と対象区分別の回答状況

はじめに、こちらを読んでください。

### 〔今後の秋田市立小・中学校について〕

秋田市では、今後、少子化が進み、子どもの数が減少していくことが想定されています。

これにより、現在の市立小・中学校の多くでは、児童生徒数や学級数が減少し、小規模な学校（1学年に1学級以下）が増えることも予想されています。

Q 1 あなたは、秋田市立の小・中学校の多くが小規模になっていくことについて、どのように思いますか。（ひとつ選択）

- ア 小規模になると問題があると思う
- イ 小規模になっても問題はないと思う
- ウ わからない

↓

（単位：件）

回 答	次世代(13-22歳)	未就学児保護者
小規模化すると問題がある	120 ( 58.0% )	152 ( 34.1% )
小規模化しても問題はない	61 ( 29.5% )	192 ( 43.0% )
わからない	26 ( 12.5% )	102 ( 22.9% )
合 計	207 ( 100.0% )	446 ( 100.0% )

次に、こちらを読んでください。

### 〔秋田市の学校適正配置について〕

秋田市では、運動会や学習発表会などの大きな集団の活動や行事が行いやすい、運動部や文化部などの活動の選択肢が増える、クラス替えができて友だちや知り合いが増える、などの効果があることから、将来的に児童生徒数が減少しても、学校に一定の規模（小学校で1学年に2～3学級、中学校で1学年に4～6学級）を持たせることが望ましいと考えています。

Q 2 あなたは、「学校に一定の規模を持たせることが望ましい」という考え方について、どのように思いますか。（ひとつ選択）

- ア 一定の学校規模を持つことが必要だと思う
- イ 一定の学校規模を持つことができればよいと思う
- ウ 一定の学校規模を持つことができなくても仕方がないと思う
- エ 一定の学校規模を持つことは必要ないと思う
- オ わからない

↓

（単位：件）

回 答	次世代(13-22歳)	未就学児保護者
必要だと思う	67 ( 32.4% )	75 ( 16.8% )
できればよいと思う	89 ( 43.0% )	226 ( 50.7% )
できなくても仕方がない	27 ( 13.0% )	103 ( 23.1% )
必要ないと思う	14 ( 6.8% )	21 ( 4.7% )
わからない・未回答	10 ( 4.8% )	21 ( 4.7% )
合 計	207 ( 100.0% )	446 ( 100.0% )

Q3 Q2で回答した理由として、あてはまるものは次のうちのどれですか。（複数選択可）

- ア たくさんの友だちや仲間ができるから
- イ 部活動の選択肢が増えるから
- ウ クラス替えができるから
- エ より多くの先生に教えてもらうことができるから
- オ 合唱や球技などの大きな集団での活動ができるから
- カ 友だちと互いに競いあったり高めあったりできるから
- キ 一人ひとりに先生の目が届きやすいから
- ク 学習や学校行事などでの役割が多くなるから
- ケ ずっと同じ仲間と過ごすことができるから
- コ 地域の方々との交流の機会が多いから
- サ わからない

↓

（単位：件）

回 答	次世代(13-22歳)	未就学児保護者
たくさんの友達や仲間	118 ( 18.8% )	250 ( 19.4% )
部活動の選択肢増える	81 ( 12.9% )	177 ( 13.7% )
クラス替えができる	65 ( 10.4% )	138 ( 10.7% )
多くの先生に教わる	35 ( 5.6% )	92 ( 7.1% )
大きな集団で活動できる	99 ( 15.8% )	170 ( 13.2% )
競いあいや高めあい	91 ( 14.5% )	172 ( 13.4% )
先生の目が届く	42 ( 6.7% )	136 ( 10.6% )
役割が多くなる	29 ( 4.6% )	43 ( 3.3% )
ずっと同じ仲間と過ごす	28 ( 4.5% )	50 ( 3.9% )
地域との交流が多い	25 ( 4.0% )	32 ( 2.5% )
わからない	14 ( 2.2% )	29 ( 2.2% )
合 計	627 ( 100.0% )	1,289 ( 100.0% )

〔参考〕回答の多い順に並び替えたもの

（単位：件）

順番	次世代(13-22歳)		未就学児保護者	
1	たくさんの友達や仲間	118 ( 18.8% )	たくさんの友達や仲間	250 ( 19.4% )
2	大きな集団で活動できる	99 ( 15.8% )	部活動の選択肢増える	177 ( 13.7% )
3	競いあいや高めあい	91 ( 14.5% )	競いあいや高めあい	172 ( 13.4% )
4	部活動の選択肢増える	81 ( 12.9% )	大きな集団で活動できる	170 ( 13.2% )
5	クラス替えができる	65 ( 10.4% )	クラス替えができる	138 ( 10.7% )
6	先生の目が届く	42 ( 6.7% )	先生の目が届く	136 ( 10.6% )
7	多くの先生に教わる	35 ( 5.6% )	多くの先生に教わる	92 ( 7.1% )
8	役割が多くなる	29 ( 4.6% )	ずっと同じ仲間と過ごす	50 ( 3.9% )
9	ずっと同じ仲間と過ごす	28 ( 4.5% )	役割が多くなる	43 ( 3.3% )
10	地域との交流が多い	25 ( 4.0% )	地域との交流が多い	32 ( 2.5% )